

## 東京都内で得られたアワテコヌカアリ

寺山 守\*・奥谷 禎一\*\*

Occurrence of a House Infesting Ant, *Tapinoma melanocephalum* (FABRICIUS)  
(Insecta, Hymenoptera) in Tokyo, Japan

Mamoru TERAYAMA\* and Teiichi OKUTANI\*\*

日本のアリでは、イエヒメアリ *Monomorium pharaonis* が家屋害虫として良く知られている。本種は本来熱帯・亜熱帯に分布するアリであるが、人類の交通機関の発達により世界中に分布を広げ、かつ室内暖房の発達により、冬でも暖かい家屋内で越冬することが可能となり、従来生息が不可能であった地域へも分布を拡大したアリである。欧米では100年余りも前から、暖房のきいた建物や温室に本種が侵入し、被害がもたらされている。東京都内に本種が生息することは戦前から知られており、どうやら昭和の初期に侵入してきたようである(矢野, 1940, 1953; 長谷川, 1949, 1983)。文献上では少なくとも1930年以前に、沖縄を除く日本での本種の記録は見あたらない。近年、東京都内のデパート、ホテル、病院、集合住宅等のコンクリート建造物中で急速に本種が繁殖して、その被害が目立つようになって来ている(久保田, 1983; 奥谷, 1990)。関東地方では都内の多くの地点で発見されている他、茨城県や埼玉県、神奈川県からも見いだされている。イエヒメアリと同様に、他地域から侵入し、建築物内に生息するアリの例として他に、上野水族館内に生息するヒゲナガアメイロアリ *Paratrechina longicornis* があげられる(安富・梅谷, 1983; ハヤアリの和名で掲載)。

最近(1992年1月)、筆者らは新宿にある某ホテルの12階の客室にアリが巣くっていると言う知らせを受け、同定を依頼された。標本を検したところ、それは関東地方から初めて記録されるアワ

テコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* (FABRICIUS) であり、働きアリと多くの女王アリが含まれていた。客室内の電話器の中を巣として利用していたものであるが、状況から判断して、建物の他の場所に営巣していたものが電話器内に移動し、移動後少なくとも1週間以内に宿泊客に発見されたものようである。多くの女王が含まれていたことから、巣を構成する個体数は大きいものと思われる。本種は体色が褐色と淡黄色の二色性を示し、働きアリで体長が1.5mm程の小形のアリである。また本種は世界中の熱帯・亜熱帯に見られ、それらの地域では家屋害虫となっている(Harada, 1990)。欧米では本種が室内に侵入、営巣し、食料品等に被害を与えることから、本種のことを“house infesting ant”と呼んでいる。日本では鹿児島市上福元町が自然分布の北限(寺山, 1983)となっていたが、筆者らは中島義人氏の御好意により宮崎県青島産(1992-I-14, 井之口希秀採集)の本種の標本を検している。南西諸島では普通に見られ、小笠原諸島にも分布している。古い記録では、大阪府天王寺植物園(東, 1951)や兵庫県宝塚植物園(寺西, 1927)の温室内で採集されたことがあり、植物とともに運び込まれて来たものであると思われる。世界中に分布していることから、今回記録されたものは海外からもたらされた可能性も否定出来ないが、小笠原諸島や南西諸島から観葉植物等とともに運び込まれた可能性も考えられよう。本種は、一つの巣に複数の女王が存在する、わずかな隙間でも営巣する、乾燥に対する耐性が強く、家屋内でも生息で

\* 〒182 調布市若葉町1-25-11

\*\* 〒350 川崎市霞ヶ関北1-20-14

きる等、イエヒメアリと共通した特徴を持ち、一度侵入してしまうとイエヒメアリの例のように急速に増殖して、各地で被害が出る可能性がある。今後とも本種の侵入には注意が必要であろう。

#### 参考文献

- 東 正雄 (1951) 大阪府の蟻類相について。兵庫生物, 1(5):86-90.
- 長谷川 仁 (1949) 銀座で昆虫採集。新昆虫, 2(4):4-6.
- (1983) 木に住みつく銀座のアリ。ペンギン・クエスチョン, 1(3):38-39.
- Harada, A. Y. (1990) Ant pests of the Tapinomini tribe. In R. K. Vander Meer, K. Jaffe & A. Cedeno, eds., "Applied Myrmecology: A world perspective", pp. 298-315. Westview Press, USA.
- 久保田政雄 (1983) アリに関する記録(3)。蟻(11):7-8.
- 奥谷禎一 (1990) 不快動物。家屋害虫, 12(1):40-47.
- 寺西 暢 (1927) 大阪天王寺植物園附属温室の蟻類。昆虫, 2(1):51-53.
- 寺山 守 (1983) 鹿児島県本土のアリ相。神奈川虫報, (69):13-24.
- 安富和男・梅谷献二 (1983) 衛生害虫と衣食住の害虫。全国農村教育協会。310pp。
- 矢野宗幹 (1940) 蟻に親しむ。動物文学, 7(5):15-18.
- (1953) 蟻の結婚飛翔。—ふしぎなその性生活—。文芸春秋, 31(11):161-165.